

文部科学省委託事業

「実社会との接点を重視した課題解決型 学習プログラムに係る実践研究」 (令和3～4年度実施)

成果発表会

配布資料

令和5年1月20日（金）

目 次

- 開催要項 3
- 受託団体の取組概要 4

【類型Ⅰ】

- ・ 大阪府教育委員会
（実践校：富田林市立第一中学校） 5
- ・ 国立大学法人千葉大学
（実践校：千葉大学教育学部附属小学校） 6
- ・ 国立大学法人信州大学
（実践校：長野市立長野中学校） 7
- ・ 国立大学法人香川大学
（実践校：香川大学教育学部附属高松小学校） 8

【類型Ⅱ】

- ・ 北海道教育委員会
（実践校：北海道登別青嶺高等学校） 9
- ・ 静岡県教育委員会
（実践校：静岡県立川根高等学校、浜松江之島高等学校） 10
- ・ 三重県教育委員会
（実践校：三重県立水産高等学校） 12
- ・ 徳島県教育委員会
（実践校：徳島県立鳴門高等学校、鳴門渦潮高等学校） 13

【類型Ⅲ】

- ・ 国立大学法人東京学芸大学
（実践校：東京学芸大学附属竹早小学校、竹早中学校、附属高等学校） . . . 15

※類型Ⅰ：小・中学校、類型Ⅱ：高等学校、類型Ⅲ：小～高等学校について実施

「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」成果発表会

開催要項

1. 開催日時及び方法

日時：令和5年1月20日（金）10時00分～16時15分（予定）

方法：オンライン配信（Zoom）※第I部についてはYouTube配信も実施

2. 趣旨

選挙権年齢及び成年年齢が18歳以上に引き下げられ、児童生徒にとって政治や社会が一層身近になっています。こうした背景も踏まえ、文部科学省では、小・中・高等学校等において、児童生徒に持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識や社会形成に参画する態度等を育むことをねらいとして、地域や現実社会における諸課題を追究したり解決したりする実践的な学習プログラムの開発に係る本実践研究事業を実施してまいりました。

成果発表会を通じて、成果を普及することによって、各都道府県・指定都市教育委員会等及び各学校における取組を促し、主権者として必要な資質・能力を育む教育の一層の推進を図りたいと考えております。

3. 日程

時間	内容
10：00～10：10	開会挨拶・趣旨説明
<第I部> 10：10～12：20	成果発表（6団体） 10：10～11：10 (1)大阪府教育委員会 (2)千葉大学 (3)信州大学 11：20～12：20 (4)香川大学 (5)東京学芸大学 (6)北海道教育委員会
12：20～13：30	休憩
13：30～14：30	成果発表（3団体） (7)静岡県教育委員会 (8)三重県教育委員会 (9)徳島県教育委員会
<第II部> 14：45～15：45	テーマ別グループセッション 「主権者として必要な資質・能力の育成」 グループ①小・中学校：((1)～(5)の受託団体) グループ②高等学校：((6)～(9)の受託団体)
16：00～16：15	講評
16：15	閉会

令和4年度 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究

類型	団体名	実践校	開発するプログラムの概要
I	大阪府教育委員会	富田林市立第一中学校	SDGsの「誰一人取り残さない」という理念について知り、身近な社会的事象から課題を見だし、世界的観点に結び付けて課題の解決に向けたアイデアを考え、企業・NPO等からのアドバイザーを生かしながら、身近な地域での行動につなげていく探究的な学習プログラム
	国立大学法人千葉大学	千葉大学教育学部附属小学校	自然災害における地域課題を子供と地域の大人が協働で考える地域ネットワークづくりを実現する学習プログラム
	国立大学法人信州大学	長野市立長野中学校	社会科学を核として系統を重視した教科等横断的なカリキュラムの編成・充実を図り、社会科学学習を中心として、地域の課題を発見し、自ら課題の解決に向かう探究学習プログラム
	国立大学法人香川大学	香川大学教育学部附属高松小学校	小学校段階において主権者として必要な資質・能力の育成を目指した、社会科学を核とした教科学習プログラム
II	北海道教育委員会	北海道登別青嶺高等学校	現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム(育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画)及び新科目「公共」の単元計画の開発
	静岡県教育委員会	静岡県立川根高等学校 静岡県立浜松江之島高等学校	・人口減少先進地域が直面する現実的課題の解決に向けた探究学習を構想するとともに、主権者として必要な資質・能力の育成を目指す学習を「入れ子構造」で設計した学習プログラム ・将来の持続可能性が危ぶまれるまちの課題を協働して調査・分析し、自ら提案した解決策を相互評価し他者へ発信する活動を通じて、持続可能な社会づくりに貢献できる公民的資質を育む学習プログラム
	三重県教育委員会	三重県立水産高等学校	公民科の「公共」の授業を中心に、地元自治体の活性化プロジェクトを考察する学習を通して、生徒の主権者として必要な資質・能力を育む学習プログラム
	徳島県教育委員会	徳島県立鳴門高等学校 徳島県立鳴門渦潮高等学校	・「徳島県鳴門市のまちづくり」について1年目は、ワークショップや外部人材活用を通して課題を探り、2年目は1年目の学びから浮かび上がった課題を実践校同士で共有しながら協力し、行政や議会に対しアイデアを提言して、その内容の評価も依頼する学習プログラム
III	国立大学法人東京学芸大学	東京学芸大学附属高校 東京学芸大学附属竹早中学校 東京学芸大学附属竹早小学校	「意思決定」に関わる資質や能力を軸として、社会科学・公民科を中心に、算数科・数学科、体育科・保健体育科の3教科で「知・情・意」を意識した連携を図り、「遊び」を活用しながら「合意形成」をテーマにカリキュラム・マネジメントを通じた、小中高を一貫する主権者教育の一つの学習プログラム

【研究主題】

「すべてのいのちが輝くアイデア」 - 自分たちのアイデアを実現し、一人も取り残さない未来社会を創る -

【開発するプログラムの概要】

SDGsの「誰一人取り残さない」という理念について知り、身近な社会的事象から課題を見だし、世界的観点に結び付けて課題の解決に向けたアイデアを考え、企業・NPO等からのアドバイスを生かしながら、身近な地域での行動につなげていく探究的な学習プログラム

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

- <中学校・2年生> 社会科（地理的分野）
- 【単元名】「日本の地域的特色と地域区分」(C(2))
- 【主な単元の目標】
 - 日本の地域的特色と地域区分を理解する。
 - 日本の地域的特色を多面的・多角的に考察し、課題解決に向けて考えたことを表現する力を身に付ける。
 - 日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現に向けて見出した課題を主体的に追究しようとする態度を養う。
- 【学習課題】地形や気候、人口などの地域差に着目すると、自身の地域の様々な課題がみえてくる。「誰一人取り残さない」という観点でこれらの課題の解決につなげるために、自分たちに何ができるかを考える。

時間	主な学習内容	
	社会科（地理的分野）	関連付けた他教科等
1-3	日本の地形・日本の国土の特色	理科「生きている地球」
4	日本の気候の特色	理科「日本の気象」
5/6	自然災害と防災への取組	保健「自然災害を知る」 総合的な学習の時間「地域学習」 (福祉・防災等)
7/8	日本の人口の特色	国語「モアイは語る」 特別活動「自治的な活動」 (無料塾、子ども食堂)
9	日本の資源・エネルギーの特色	技術「エネルギー変換」
10	日本の産業の特色	総合的な学習の時間「SDGsについて」
11	交通・通信による結びつき	技術「情報技術」 「地域学習」 (地域の良さや課題等)

【実践例】※社会科（地理的分野）「日本の地域的特色と地域区分」 第11/11時 交通・通信による結びつき

授業の概要

- <概要>
 - 交通・通信の発達、地域同士の結びつきを強めてきていることや、その結びつきには偏りがみられることを理解する。
 - SDGsの理念の観点から、交通・通信の発達はどういう課題解決につながるのか。この点について、自分たちの地域における課題に着目し考察する学習を通じて、主体的に解決しようとする態度の育成につなげる。



<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- 交通の発達については、高速道路が整備されていないという自分たちの地域課題と結びつけて考えさせることで、偏りを実感できるようにした。
- 通信の発達については、スマホ等の情報端末から多くの情報を得られることや、世界中とつながることができる等の利便性がある一方、通信網の整備状況によって情報格差があることに着目できるようにした。

○社会科（地理的分野）と他教科等との連携

- 先行して行った総合的な学習の時間「SDGsについて」の学習で、社会の課題を解決するアイデアを考えたとにより、交通・通信の発達により解決できる地域課題について多面的に見出し、その解決に向けて主体的に関わろうとする態度につなげることができた。

専門家や関係諸機関等との連携・協働

生徒が地域の課題を見出し、その課題解決のため、主体的に取り組む自治的な活動として展開できるよう、富田林市社会福祉協議会や富田林市人権文化センター、市役所の関係課とも連携・協働しながら、地域における実践内容を含めた学習プログラムを開発している。

効果等

- ◆「誰一人取り残さない」というSDGsの理念に関連させて捉えることができた。
 - ◆「地域課題に着目し、「自分たちに何ができるか」を考えることにより、課題解決をめざす自治的な活動に対する主体性を高めることができた。
- ⇒「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありましか」R4肯定的回答71.5%(R3 40.4%)

【研究主題】

社会とつながる児童の育成～ICTを活用して地域とのネットワークづくりを実現する防災教育～

【開発するプログラムの概要】

グループウェアを活用し、自然災害における地域課題を子どもと地域の大人が協働で考える地域ネットワークづくりを実現するプログラムの開発

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<小学校・6年生> 社会科

【単元名】自然災害からの復旧・復興 (1)ア(イ)(ウ)イ(イ)

【主な単元の目標】

国や地方公共団体の政治について、政策の内容や計画から実施までの過程、法律や予算との関わりなどに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめ、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにする。

【学習問題】

自然災害によって被害に遭った人々の願いを実現するために、政治はどのようなはたらきをしているのだろうか。

【実践例】※社会科「自然災害からの復旧・復興」第1-3/10時、総合的な学習の時間 第4-10/10時

授業の概要

<概要>

- 熊野町を例に取り上げ、過去の災害時には、ペットやアレルギー、乳幼児、高齢者など様々な理由から避難所利用率が非常に低かったこと、その後、行政が町民の声を聞きながら、新たな避難所「熊野町防災交流センター」の開設に至ったことを知り、地方公共団体の政治は、国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを理解する。

- 熊野町の事例を参考にしつつ、千葉市防災課担当者の話やPC等を使って収集した情報などを基に、自分たちの地域における避難所や防災の状況について調べ、災害時に自分たちにできること、地方公共団体に頼らなければならぬことについて考え、整理する。

<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- 熊野町の事例を参考にすることで、災害時に起こり得る課題を具体的にイメージする際の支援とした。

○社会科と他教科等との連携

理科「土地のつくりと変化」総合的な学習の時間「地域の防災を考える」

専門家や関係諸機関等との連携・協働

事例の提供（広島県熊野町役場防災安全課、熊野東防災交流センター、熊野町立熊野第一小学校）／地域の防災を考える際の指導・助言（千葉県千葉市防災対策課、NPO法人Drops、一級建築事務所o+h）

効果等

- ◆「避難所」を取り上げ、そこに集まる様々な人の営みや運営する人の思いなどに触れることで、多角的な思考につなげることができた。
- ◆熊野町の学びにとどまらず、総合的な学習の時間「地域の防災を考える」につなげたことで、自分たちの地域の避難所や避難行動について切実感をもって考えることができた。

時間	主な学習内容	
	社会科	関連付けた他教科等
1	西日本豪雨の様子や被害の概要について調べる。	理科「土地のつくりと変化」
2/ 3	熊野町を例とし、発災直後、復旧期、復興期に分け、それぞれのフェーズの政治のはたらきを調べる	
4- 10	総合的な学習の時間「地域の防災を考える」（千葉市の避難所、防災対策） ※「熊野東防災交流センター」の開設経緯を取り扱う。	

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

※このほか、4. 5年生についても研究を行った。

【研究主題】

「グローバルな視野をもちながら、ローカルにたくましく生きる自立した生徒の育成」—地域に根ざし持続可能な社会を目指す社会科学習と「翼プロジェクト」との連続性を探る—
 【開発するプログラムの概要】
 社会科学を核として系統を重視した教科等横断的なカリキュラムの編成・充実を図り、社会科学習を中心として、地域の課題を発見し、自ら課題の解決に向かう探究学習プログラムを開発することで、グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した生徒の育成を目指す。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<中学校・3年生> 社会科学（公民的分野）

【単元名】 民主政治と政治参加（C（2））

【主な単元の目標】 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて、主体的に関わり合うとする。

【学習課題】 よりよい社会を築くために、私たちはどのように政治に関わっていくべきだろうか。

時間	主な学習内容
1	社会科学（公民的分野） 関連付けた他教科等 単元の導入 よりよい社会の実現に向けて
2-6	現代の民主政治
7-15	国の政治の仕組み
16-22	地方自治と私たち ・住民自治と団体自治 ・地方自治の仕組みと財源 ・地方自治の課題 ・政治参加 「長野市の課題とこれからのまちづくり—防災の視点から、地域のために自分たちができることを考えよう。—」 ・地方自治のまとめ
23	大単元のまとめ よりよい社会の実現に向けて

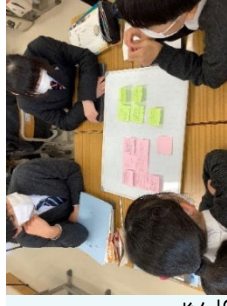
※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号
 ※このほか、2年生の地理的分野についても研究を行った。

【実践例】 社会科学（公民的分野） 「地方自治と私たち」 第21/23時

授業の概要

<概要>

- ・学習課題「長野市や地域で持続可能な社会を実現するために私たちができることは何だろうか？」に対し、地域の課題を追究する過程で生徒たちから発せられた「この地域の防災に対する備えはどうか」という疑問と、地域の自治協議会から学校に投げかけられた地域課題「避難所について、地域と学校とで一緒に考えたいを基に、「防災・安全」の視点から自分たちが地域のためにできる防災「避難所開設・運営マニュアル」の作成を試みた。
- ・授業を通して、「避難予定施設に関わる人たちがみな、対応についてあらかじめ話し合っておく必要がある」「住民一人一人が地元を大切に思い、地域住民が運営に参加する意識をもつことが大切」など、地域への帰属意識に基づいた提案をすることができた。



<指導上の工夫>

○ **地域や社会生活における具体的な課題を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫**

生徒にとって身近で既習内容が生かせる地域の具体的な課題を、学習課題に設定する。
 ※地域の自治協議会から学校に投げかけられた地域課題と、生徒の学びの軌跡とを交差させた授業を構想した。

○ **社会科学（公民科）と他教科等との連携**

総合的な学習の時間「地域貢献活動（地域の魅力を調査し、発信する活動）」、特別活動「防災・減災学習」

専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・若槻自治協議会 防災担当者
- ・石巻西高等学校元校長

効果等

- ◆ 社会科学だけでなく、3年間の総合的な学習の時間や修学旅行で学んできたことを生かしながら、自分たちの考える避難所開設・運営（校舎利用図・避難所運営のシミュレーション）を地域の住民自治協議会に提言することを通して、地域社会への参加の意義について体験的に学ぶことができた。
- ◆ 地域への愛着、防災意識の高まりの2つの視点から、学びを深めることができた。

【研究主題】

主権者として必要な資質・能力の育成を踏まえた社会科学、異学年集団での社会とつながるプロジェクト活動の授業実践を通して、今後の持続可能な社会の創り手を目指すプログラム開発

【開発するプログラムの概要】

小学校段階において主権者として必要な資質・能力の育成を目指した、社会科学を核とした教科学習プログラムの開発
※令和4年度より研究開発学校の指定を受け、異学年集団での社会とつながるプロジェクト活動として「ちようせん」の時間を設けている。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<小学校・4年生> 社会科学

【単元名】水の循環 ～上水道と下水道～ (2)

【主な単元の目標】飲料水の供給や下水処理の事業は、安全かつ安定的に行われるよう計画的に進められていることや、人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。

【学習問題】水道の水は、どのように送られてきて、使った後はどうなるのだろう。水の道筋を流れ図にまとめてそのひみつを探ろう。

時間	主な学習内容	
	社会科学	関連付けた他教科等
1-3	校内の水の流れを図にまとめ、学習問題と学習計画を立てる。	
4	学校から浄水場までの水の流れを調べ、流れ図にまとめる。	
5-7	浄水場を見学し、水をきれいにする仕組みを調べ、まとめる。	「はっけん」の時間 附小のサバイバル!
8-10	水源までの水の流れを調べ、流れ図を完成させる。	「ちようせん」の時間 国際交流プロジェクト
11-14	下水処理場を見学して仕組みを調べ、海に流す水について調べ、深まった課題をつくる。	「ちようせん」の時間 海ごみプロジェクト
15-17	季節別運転管理の取組について、専門家に話を聞く。	
18-19	下水処理場の取組について話し合う。	「はっけん」の時間 アブラカタブラ
20-21	自分の考えを意見文に書いて発信する。	国語 「言葉で考えを伝える」

※単元名の () 内は学習指導要領の内容の該当番号

※このほか、3年「農家の仕事」についても研究を行った。

【実践例】 ※社会科学 「水の循環 ～上水道と下水道～」 第19/21時

授業の概要

<概要>

自分たちの地域の下水処理場が行っている「季節別運転管理（季節によって放流する水の栄養塩類の濃度を切り替えること）」について、きれいで豊かな海（河川）を確保していくために今後どのように取り組んでいけばよいかを話し合うことを通して、下水処理の事業が地域の生活環境に配慮しながら行われていることや、人々の生活環境の維持と向上に役立っていることを理解する。

これまでの学びを踏まえて、季節別運転管理を行う時季と範囲について選択・判断し、その理由を説明する活動を通して、根拠をもって相手と説得する力を養う。また、様々な立場の方の意見を基に考えられるように支援することで、多角的に考察する力も養えるようにする。

<指導上の工夫>

○**地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫**

- ・地域に見られる課題について考える「深まった課題」を、子供の意識の流れに合わせて意図的に設定することで、選択・判断する場面をつくり出す工夫
- ・正解が1つに定まっておらず、多様な考えに触れることができる教材を取り上げることで、専門家の意見を基に考察し、公正に判断できるようにする工夫

○**社会科学と他教科等との連携**

縦割り活動「はっけん」の時間

専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・御殿浄水場の見学
- ・水資源機構の出前授業
- ・香川大学瀬戸内圏研究センターとの意見交流
- ・香川水記念館の見学
- ・香東川浄化センターの見学

効果等

- ◆単元途中には、資料や専門家の発言等を根拠にして友達を説得しようとする姿や、様々な立場の意見を比較しながら考える姿等が見られた。また単元後には、身の回りの水に関する出来事に関心をもって調べようとしている姿が見られるようになった。
- ◆単元実施前後にとったアンケートで、「どうすれば地域や社会をよりよくできるかについて考えている」「わたしの考えが、地域や社会の役に立つことがあると思う」という項目に大きな伸びが見られた。
- ◆「地域や社会をよりよくするために、自分なにかをしたいと思う」という設問については、あまり差異が認められず、子供の具体的に行動を起こそうとする意識の向上に関しては課題を残している。

【研究主題】及び【開発するプログラムの概要】

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム（育成を旨とする資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画の開発
～公民科及び学校設定科目「じもと学」を中核とする、地域と連携した主権者教育の実践～

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・1年生> 公民科（公共）

【単元名】主として経済に関わる事項（Bア(ウ)(イ), 1)

【主な単元の目標】職業選択、雇用と労働問題などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られることを理解する。

【学習課題】2050年の日本を担うのはどのような産業か

時間	主な学習内容	
	公民科（公共）	関連付けた他教科等
1/2	職業選択 I	総合的な探究の時間 じもと学(学校設定科目)
3/4	雇用と労働問題	総合的な探究の時間 じもと学(学校設定科目)
5/6	財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化	家庭科 じもと学(学校設定科目)
7/8	市場経済の機能と限界	
9-11	金融の働き	家庭科
12/13	経済のグローバル化と相互依存の深まり	
14/15	職業選択 II ※本時（単元のまとめ）	総合的な探究の時間 じもと学(学校設定科目)

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

【実践例】 公民科（公共）「職業選択 II」 第 14・15/15 時

授業の概要

<概要>

- ・人口減少や労働力不足についての基本的な理解に基づき、登別の産業において活用できるAI等の技術について、グローバル化や持続可能な社会などの観点から評価し、登別の産業を発展させるための視点を身に付ける。
- ・単元の初回の授業で考察した「2050年の日本を担う産業」について、これまでの学習で身に付けた知識や視点を活用して主体的に振り返る。

<指導上の工夫>

○ 地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- ・「RESAS」（地域経済分析システム）を活用して地域の産業別労働人口や、売上額等のデータを収集し、年代別の推移について考察した（右上の上の画像）。
 - ・考察結果から、地域の将来を担う産業について、「地元らしさ」、「グローバル化への対応」、「持続可能性」の3つの視点を基に見通しを立てた。
 - ・生徒が立てた産業に対する見通しについて、登別市役所職員（各産業の担当者）5名からそれぞれ助言を得た（右上の下の画像）。
 - ・最後に単元の基軸となる問いについて、生徒が再び考察・表現した。
- 公民科と他教科等との連携
- ・「総合的な探究の時間」で実施した地域研修での学習成果を活用。
 - ・「公共」で身に付けた知識等を「じもと学」[学校設定科目]で活用し探究。



専門家や関係諸機関等との連携・協働

- 「職業選択 II」における登別市役所職員との連携（講師として招へい）
- ・授業の冒頭において、地域の現状や課題等について講義
 - ・生徒が学習課題を基に協議する場面において、考察の視点について助言
 - ・授業のまとめにおいて、今後の地域課題の探究に係る展望などについて助言

効果等

生徒アンケートの結果（R3）

- ・「将来、政策決定など積極的に政治に参加したい」50.9%→61.1%(+10.2)
- ・「選挙権が与えられたら投票に行こうと思う」79.5%→87.7% (+8.2)

【研究主題】

人口減少地域の課題解決を素材とした主権者として必要な資質・能力を育む教育の実現方法～地域課題の探究と道徳的価値の探究を「入れ子構造」に設計して～
 【開発するプログラムの概要】

人口減少先進地域が直面する現実的課題の解決に向けた探究学習を構想するとともに、主権者として必要な資質・能力の育成を目指す学習を「入れ子構造」※で設計した学習プログラムの開発。 ※「入れ子構造」：探究サイクルと習得サイクルが、時期を置いて連鎖する仕掛け

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・1年生> 公民科（現代社会） ※R3年度の実践
 【単元名】共に生きる社会を目指して((3))

【主な単元の目標】

現代社会の諸課題について、幸福・正義・公正等の観点から地域の「ありたい未来」の形成者として考察し、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動とおして、主権者として必要な資質・能力を育む。

【学習課題】

「第2次川根本町総合計画」の進捗状況を評価し、「こうありたい」と思える未来の実現に向けて政策を提言しよう。

時間	主な学習内容	
	公民科（現代社会）	関連付けた他教科等
通年		総合的な探究の時間 「小高交流」
1	地方自治・財政の現状と課題	情報科 「オープンデータの活用」
2/3	「第2次川根本町総合計画」の分析	情報科 「統計分析」
4	「広報かわねほんちよう」川根本町議会 会議録の分析	家庭科 「社会保障の考え方」
5-9	政策づくり	総合的な探究の時間 「ブレゼンのコッ」
10	小高合同で町長へ政策提言	

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号
 ※このほか、3年生についても研究を行った。

【実践例】 ※ 現代社会「小高合同で町長へ政策提言」 第10/10時

授業の概要

<概要>

月1回のペースで近隣小学校と交流して築いた関係性を土台にして、小学生と高校生がそれぞれ「町が直面する現実的課題にどう対処するか」の観点から政策づくりに取り組んだ。高校に町長などを招き、小学生と合同で政策提言を行った。

<指導上の工夫>

- 地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫**
- ・町の総合計画や広報誌、議会会議録を活用することで、自分たちの地域の課題についてより具体的に考える支援とした。
- ・町長など町役場幹部職員と小学生の前で発表する機会を設け、生徒の地域への主体的な参画意識を高め、相手に伝わりやすい発表や表現を工夫するよう意識させた。
- ・生徒が自分事として捉えられるように、生活者としての満足度を優先して政策提言するよう意識させた。
- ・生徒・教員・外部人材ともに、お互いの立場を意識した「共感」を議論の中で意識させることで、連携・協働の意識を高めるようにした。

○**公民科と他教科等との連携**

- ・「町が直面する現実的課題」を共通言語に、左記の複数の教科等において、生活者としての視点を重視させながら内容を扱った。
- ・関連する内容が運動するようにカリキュラム・マネジメントを行った。

専門家や関係諸機関等との連携・協働

- 川根本町企画課、川根本町教育委員会、川根本町青年会議所
- ・政策提言時だけの単発の関わりではなく、教育活動の伴走者として授業計画段階から継続的に関わってもらった。
- ・学校設置者の違いを越えて連携しつつ、学校は担うべき学習指導に集中するため、町役場との調整については、青年会議所に仲介役を担ってもらった。

効果等

- ◆ 「社会的事象や地域課題を自分事として捉えようとしたか」に対する自己評価 肯定的回答97.4%
- ◆ 「自分たちの学校は自分たちでつくる」「自分たちの学校をどうやって改善していくか」という意識の高まり

【研究主題】

持続可能な社会づくりに貢献する公民的資質の育成～持続可能な防災まちづくりの提案を通して～

【開発するプログラムの概要】

将来の持続可能性が危ぶまれるまちの課題を協働して調査・分析し、自ら提案した解決策を相互評価し他者へ発信する活動を通じて、持続可能な社会づくりに貢献できる公民的資質を育む学習プログラムの開発。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・3年生>公民科（現代社会）

【単元名】持続可能な防災まちづくり（3）

【主な単元の目標】持続可能な防災まちづくりに貢献する資質の育成
 【学習課題】浜松市南区で地震・津波の被害を最小限にし、地域の防災まちづくりに貢献するにはどうすればいいか？

時間	主な学習内容	
	公民科（現代社会）	関連付けた他教科等
1/2	地域課題の概要理解 課題の設定	総合的な探究の時間
3/4	課題の調査・分析	
5/6	解決策・作品の提案	商業科
7	中間発表・相互評価会	ホームルーム活動
8-11	解決策の調整・再提案 作品・成果物の制作	商業科
12/ 13	地域での発表・交流・発信	総合的な探究の時間
14	レポート作成・まとめ	

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

※このほか、2年生についても研究を行った。

効果等

- ◆「持続性を問う5観点」（分析度・継続性・魅力度・リスク・実現性）等を活用し、地域防災への貢献に向けた提案・成果物の修正（改善）がなされたのは、202人のうち、173人。
- ◆地域への参加意欲や主体性を見取るアンケートで、最終的に、自らが地域の課題にとっても関わりがあると答えた生徒が49%の98人（R3の23%から大幅改善）。また地域の課題解決によく貢献したいと答えた生徒が83人だった。一方、「自分ひとりの力では地域は変えられない」と結論付ける生徒もいた。

【実践例】※公民科「中間発表・相互評価会」「解決策の調整・再提案」第7・8/14時

授業の概要

<概要>

- 3年生202人が興味に沿って6ジャンルから一つ選び、2～4人班（計67）を作って、課題設定から解決策の提案までの活動を行った。成果を同ジャンルの他班と共有するた
- 発表会では、「解決策・成果物の内容」「連携する地域の方」「地域の方に理解して貰うための注意点」を発表し、他班から評価（実現性・貢献度・魅力度）と改善のコメントを貰った。
- 発表会で貰ったコメントから、解決策の改善が必要な点を班内で共有し、タブレットを用いて再調査・提案を行った。地域の方への連絡・質問やフィールド調査を行って成果物を作った。

<指導上の工夫>

○**地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫**

- ・地域の防災に貢献するために必要な視点（地域の実情・ニーズ）を意識させ、全員が地域の方に学習成果を直接発表・発信・交流する機会を通して、地域の課題を自分の課題意識へと結び付けた。地域の方から評価を貰うことで、自らの取り組みが防災の役に立っている実感させ、社会的課題への主体的態度を涵養した。
- ・主に商業科と連携し、情報処理（スライド・ドキュメント作成等）の技術や持続可能性の理念と企業活動を学習することで、解決策作りの土台を形成した。
- ・市役所・南区役所の担当者より講演いただき、行政への提案に対する講評を頂く。
- ・近隣自治会連合会や地域防災訓練への参加・交流とチラシ等を地域で配布。

専門家や関係諸機関等との連携・協働



【研究主題】

「志摩市活性化プロジェクト」の考案をおとした社会参画力の育成

【開発するプログラムの概要】

公民科の「公共」の授業を中心に、地元自治体の活性化プロジェクト（「志摩市活性化プロジェクト」）を考案する学習をおして、生徒の主権者として必要な資質・能力を育むプログラムを開発する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・1年生> 公民科（公共）

【単元名】

現代社会の諸課題（Bア(ウ)(E),イ）

【主な単元の目標】

主として経済に関わる事項について、法、政治などの側面を関連させ、解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したことを、表現する。

【学習課題】

すべての人の幸福を実現できる社会の形成に向けて、自立した主体として活動するために必要なことは何か。

時間	主な学習内容	
	公民科（公共）	関連付けた他教科等
1	職業選択、雇用と労働問題	商業科
2/3	財政および租税の役割	
4/5	少子高齢社会における社会保障の充実・安定化	
6	市場経済の機能と限界	
7	金融の働き	家庭科
8/9	経済のグローバル化と相互依存関係の深まり	商業科
10/11		特別活動 「志摩市活性化プロジェクト」中間発表会

【実践例】 公民科（公共） 「財政および租税の役割」 第3/11時

授業の概要

<概要>

地元自治体の三重県志摩市の財政の課題について、志摩市の現状を踏まえ、「効率」「公正」「幸福」「持続可能性」などの概念を活用し、その解決方法について、多面的・多角的に考察する。



<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- ・まちづくりのために、税金がどのように使われているかなどについて、納税者及び住民としての立場から関心をもちることができるよう、地元自治体の広報誌「広報 しま（予算特集号）」を活用した。
 - ・生徒が考案する「志摩市活性化プロジェクト」の実現可能性、妥当性や効果を検証できるように、志摩市の施政方針や予算規模を確認した。
 - ・説得力のある意見となるよう、他の自治体の予算規模等、様々な資料と照らし合わせながら、必要な情報をまとめるようにした。
- 「財政および租税の役割」について理解を深め、財政を自分たちに関わる問題として捉えることができるよう、東海財務局津財務事務所と連携し、「財政教育プログラム」を活用した出前授業を実施した。

専門家や関係諸機関等との連携・協働

効果等

- ◆ 地元自治体の財政の課題について、「人間と社会の在り方」についての見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考え話し合うことにより、政治と自らの関わりを意識することができるようになった。
- ◆ 課題の解決に向けて合意形成を視野に入れながら、自分の考えが説得力のあるものとなるよう、必要となる情報を効果的に調べまとめたり、表現したりしようとする態度が養われた。

【研究主題】

新科目「公共」の目標や内容の趣旨を踏まえた学習プログラムの開発・実施

「徳島県鳴門市のまちづくりを考える」～5年先，10年先，私たちが住み続けるまちであるために～

【開発するプログラムの概要】

「徳島県鳴門市のまちづくり」について1年目は，ワークショップ等を等通じて課題を探り，2年目は1年目の学びから浮かび上がった課題を鳴門渦潮高等学校と共有しながら協力し，行政や議会に対しアイデアを提言して，その内容の評価も依頼する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・2年生> 公民科（倫理）

【単元名】民主社会と自由を求めて（大項目(3)ア）

【主な単元の目標】倫理に関する概念や理論を活用して課題解決の方向性を探る。

【学習課題】「5年先，10年先の鳴門市の未来につながる提案はどのようなものか」

時間	主な学習内容	
	公民科（倫理）	関連付けた他教科等
1	社会契約説	総合的な探究の時間 なると未来づくり総合戦略
2/3	功利主義	総合的な探究の時間 生涯学習まちづくり出前講座の活用
4	社会主義思想	
5/6	カントの道徳法則，人格の尊厳	
7	ヘーゲルの人倫の思想	
8/9	実存主義	
10	現代の正義論	

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

効果等

◆連携の機会を見通しと振り返り，成果発表の場面とすることで，学びの調整を促すことができた。

1 →評価資料として，成果物を作成し，その過程を見取り評価する。

3 ◆「若者の社会参加で社会は変わると思ふか」…かなり変わる 20%→60% ◆「社会参画意欲はどのくらいか」…高い・やや高い 17%→65%

【実践例】 ※公民科「カントの道徳法則」 第5/10時

授業の概要

<概要>

問い：「普遍的な道徳とは何か。理想的な社会とは何か。」

【授業の展開】

・カントの道徳法則について学び，「普遍的法則になりうるような格率にしたがって行為せよ。」の解釈を通して義務論的な見方を理解する。

・JR四国の運賃値上げを題材に，実現したい社会像や大切にしたい価値について，倫理の理論や概念を活用して考える。

・公共交通に関する個々の生徒の考えをマトリクス上に示し，持続的なまちづくりの在り方について考えを深める。

<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

・鳴門市のまちづくりに関するアンケートを作成・実施し，その結果から，多様な世代や立場から利便性の向上を望む声が多かった公共交通機関について，題材を設定。

・鳴門市の公共交通，教育，子育て，にぎわいの創出に関する意見書を鳴門市に提出し，課題解決に関わる体験を得る。

○公民科と他教科等との連携

・総合的な探究の時間で学んだ鳴門市の課題について，公民科の視点から課題解決の在り方を考えた。

専門家や関係諸機関等との連携・協働

・鳴門市企画戦略課による出前講座「なると未来づくり総合戦略」

・鳴門市議会事務局「鳴門市高校生会議」・鳴門市「生涯学習まちづくり出前講座」

・鳴門教育大学…単元構想，授業実践における指導・助言，関係諸機関との連携に係るコーディネート



【研究主題】

新科目「公共」の目標や内容の趣旨を踏まえた学習プログラムの開発・実施

「徳島県鳴門市のまちづくりを考える」～5年先, 10年先, 私たちが住み続けるまちであるために～

【開発するプログラムの概要】

「徳島県鳴門市のまちづくり」について1年目は, 外部人材活用を通して課題を探り, 2年目は1年目の学びから浮かび上がった課題を鳴門高等学校と共有しながら協力し, 行政や議会に対しアイデアを提言して, その内容の評価も依頼する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高等学校・3年生> 公民科 (政治・経済)

【単元名】民主政治の基本原理 (大項目(1)ア)

【主な単元の目標】地域の課題解決に主体的に取り組み意識を高める。

【学習課題】「5年先, 10年先の鳴門市の未来につながる提案はどのようなものか。」

時間	主な学習内容	
	公民科 (政治・経済)	関連付けた他教科等
1	鳴門市の財政の現状と課題	外部講師による授業
2	鳴門市の現状と課題	総合的な探究の時間 (地元企業・団体を訪問)
3	地方自治制度	
4	住民の権利(1)	
5	住民の権利(2)	
6/7	政党政治と選挙制度	
8	民主政治における世論の役割	

※単元名の () 内は学習指導要領の内容の該当番号

【実践例】※公民科 (政治・経済) 「地方自治制度と住民の権利」 第3-5/8時 授業の概要

<概要>

問い：「私たちがどのように社会を形成していくか」

【授業の展開】

- ・フィールドワークで得た知識を振り返る。
- ・自分たちが地域のことをどう思っているか, formsを活用し, 「テキストマニング」により分析した資料を通して確認する。
- ・鳴門市が抱える課題を再度確認する。
- ・グループワークを通して, 他者の意見を聞きながら課題解決策を考察・構想する。
- ・鳴門市観光課の資料なども参考にしながら, 持続可能な課題解決を探る。

<指導上の工夫>

○**地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするた**

め**の指導上の工夫**
・鳴門市のまちづくりに関するアンケートを作成・実施し, 幅広い層の市民の意見を課題解決の手がかりとする。

・フィールドワークを通して, 市内の現状を把握する。

・鳴門市の風土を活かした, にぎわいの場の創設に関する意見書を鳴門市に提出し, 課題解決に関わる体験を得る。

○**公民科と他教科等との連携**

・総合的な探究の時間で学んだ鳴門市の課題について, 公民科の視点から課題解決の在り方を考えた。

専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・鳴門市財政課・鳴門市議会事務局・鳴門市観光課
- ・税務署・税理士・地元企業(4企業1団体)
- ・鳴門教育大学…単元構想, 授業実践に係る指導・助言
関係諸機関との連携に係るコーディネート



効果等

◆ 連携の機会を見通しと振り返り, 成果発表の場面とすることで, 学びの調整を促すことができた。→評価資料として, 成果物を作成し, その過程を見取り評価する。

◆ 「自分たちが住む・通う鳴門市に関心をもっているか」…ややもっている 38%→92%

◆ 「今後, 主権者として社会参画する意欲はどのくらいか」…やや高い 26%→88%

【研究主題】

「遊び」を生かして主権者を育てる社会科学・公民科を中心とした小中高連携カリキュラムの開発

【開発するプログラムの概要】

「意思決定」に関わる資質や能力を軸として、社会科学・公民科を中心に、算数科・数学科・体育科・保健体育科の3教科で「知・情・意」を意識した連携を図り、「遊び」を活用しながら「合意形成」をテーマにカリキュラム・マネジメントを通して小中高を一貫する主権者教育の一つの学習プログラムを開発する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<小学校・6年生> 社会科学

【単元名】国民としての権利（選挙）（1）ア(7)(1)

【主な単元の目標】

- ・選挙は国民の代表者を選出する大切な仕組みであること、及び、選挙権など政治に参加する権利が国民に保障されていることを理解できるようにする。
- ・資料やインタビュー活動を通して視覚障害をもつ人が選挙に行く際の困難さを知り、選挙権が保障されるための課題が何なのか、そのために国や地方公共団体にはどんな対応が求められるのか考え、表現する。
- ・自分の周りの人々の置かれている状況に目を向けるために、新聞記事やニュース映像等を活用して社会の出来事を調べ、社会が抱えている課題を見つめる。

【学習問題】政治に参加する権利の一つである選挙権が、等しく国民に保障されるために、国や地方公共団体には何が求められるだろう。

時間	社会科学	主な学習内容	関連付けた他教科等
1/2	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における選挙制度と模擬投票 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつ人々が選挙に行く困難さに触れ、選挙の課題がどこにあるのか考える。 	自己実現活動「よりよい社会を目指して」 ・視覚障害者に対する質問をまとめ、インタビュー活動の準備をする。	
4-6	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害当事者の話や新聞記事・ニュース等で調べた情報を基に、障害の有無に関係なく選挙権が保障されるために、国や地方公共団体にどのような働きが期待されるのか、考え、まとめる。 	自己実現活動「よりよい社会を目指して」 ・ゲストティーチャー（視覚障害者）を迎え、インタビュー活動等を行う。 ・自分たちがよりよい社会を実現するためにできることを考え、ゲストティーチャーに発表する。 ・ゲストティーチャーからの返信を受けて改めて自分たちが社会ができることを考え、まとめる。	

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

※「自己実現活動」は、教育課程特例校認定によって設置された教科横断的な学びを行う教科である。

【実践例】 ※自己実現活動「よりよい社会を目指して」 第4・5/6時

授業の概要

<概要>

- ①ゲストティーチャーの紹介
- ②学習前のアンケート結果や質問項目を振り返り、障害に対するクラスの考えの傾向を捉える。
- ③ゲストティーチャーへ質問をする。
- ④点字器を使って模擬投票をしたり、PCを使いながら他者とコミュニケーションをとる様子を見る。
- ⑤事前に社会科学の授業で学習した国民としての権利である選挙権についてや、ゲストティーチャーへのインタビューを通して、よりよい社会を創るために自分や社会ができることについて、「共生社会」という言葉を意識しながら考えをノートに書く。
- ⑥本時の振り返りを行う。

<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- ・児童が考える障害者像を捉え直すために、ゲストティーチャーに点字の美演や生活の中で行っている工夫を聞く機会を設けたこと。
- ・「自分だったら？」と授業者が児童へ問いかけ続けることで、学習問題を常に意識して考えるようにしたこと。

○小中高を一貫する学習プログラムに資する工夫

- ・自分たちが考えた解決策を視覚障害当事者に投げかけ、その反応をもとに再度考えを吟味した。合意形成を複数回行うようにすることで、合意形成の深化を目指したこと。

○社会科学と他教科等との連携

自己実現活動

専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・視覚障害当事者
- ・文京区選挙管理委員会

効果等

- ◆ゲストティーチャーとの交流を通して、児童は障害をもつ人々に関心を寄せ、社会インフラなどが自分たち以外の人たちにも使いやすいものになっているかどうか、「共生社会」実現のために自分や社会ができることは何かを考えることができた。
- ◆交流後もゲストティーチャーとのやり取りを継続させ、児童の質問や考えに対してアドバイザーを受けたことで、児童は考えを見直したり、深めたりすることができた。

【研究主題】

「遊び」を生かして主権者を育てる社会科学・公民科を中心とした小中高連携カリキュラムの開発

【開発するプログラムの概要】

「意思決定」に関わる資質や能力を軸として、社会科学・公民科を中心に、算数科・数学科・体育科・保健体育科の3教科で「知・情・意」を意識した連携を図り、「遊び」を活用しながら「合意形成」をテーマにカリキュラム・マネジメントを通じた小中高を一貫する主権者教育の一つの学習プログラムを開発する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<中学校・3年生> 社会科学 (公民的分野)

【単元名】 私たちのくらしと政治 (C1)ア(ア)(1)C (2)ア(ア)(1)(ウ)

【主な単元の目標】

・我が国の民主政治の仕組みのあらまじや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するための法に基づく公正な裁判の保障について理解する。

・障害者の方の話を踏まえ、現在の選挙について公正の視点から考察し、現状と課題について理解する。

・課題を解決し、国民が等しく政治に参加できるようにするためには、どのようなことが必要か、考え、表現する。

【学習課題】

主権をもつ国民の意思を政治に反映させ、皆がくらしやすい社会を実現していくために必要なことはなんだろうか。

時間	主な学習内容	
	社会科学 (公民的分野)	関連付けた他教科等
1	民主主義と政治	
2	政治参加と選挙	・特別活動 (生徒会活動) 「生徒会役員選挙」
3	政党と政治	
4	マスメディアと世論	
5/6	民主政治の推進 「障害のある人からみた選挙の壁」(本時)	

※ 単元名の () 内は学習指導要領の内容の該当番号

【実践例】 ※社会科学 (公民的分野) 「障害のある人からみた選挙の壁」 第5・6/6時

授業の概要

<概要>

- ① ゲストティーチャーより、障害の特性についてお話いただく。
- ② 選挙に行く際に必要な支援について説明いただくとともに、郵便投票の仕組みを勝ち取った経緯や投票に当たった様々なサポート情報を紹介するNHK「みんなの選挙」ページの作成に関わった経験についてお話いただく。
- ③ 選挙の「壁」をつくっているのはだけか。なぜ壁があるのか。車椅子を例に、「個人モデル (障害は車椅子の人にある)」から「社会モデル (障害は車椅子を利用できない環境にある)」へと思考を転換していくことの重要性を理解させる。
- ④ グループ討論
 - 1) あなたが障害者だったら、投票に行くかどうか？ その理由も。
 - 2) 障害のある、ないに関わらず、多様な人々の立場から考えるには、何が必要だろうか？
 - ⑤ グループ発表と本時の振り返り

<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

当事者からお話いただくことで、意思決定場面において、当事者の立場を考慮えてより具体的なイメージを持って改善策を考えることができるようにした。

○小中高を一貫する学習プログラムに資する工夫

題材選択に選挙の「壁」と、外部人材に「障害者」の直接対話を小中高で共通項にすることで、一貫した学習プログラムとした。

○社会科学と他教科等との連携

特別活動 (生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営)

専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・ALS (筋委縮性側索硬化症) 患者
- ・文京区選挙管理委員会

効果等

- ◆主権者として平等に行使する権利が妨げられていないか、社会を構成する様々な人の視点から考えることの大切さに気が付くことができた。また、そのような意識をもつことが、多様性を認め合う社会の基礎となっていく、という気付きにもつながった。

【研究主題】

「遊び」を生かして主権者を育てる社会科学・公民科を中心とした小中高連携カリキュラムの開発

【開発するプログラムの概要】

「意思決定」に関わる資質や能力を軸として、社会科学・公民科を中心に、算数科・数学科・保健体育科の3教科で「知・情・意」を意識した連携を図り、「遊び」を活用しながら「合意形成」をテーマにカリキュラム・マネジメントを通して小中高を一貫する主権者教育の一つの学習プログラムを開発する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高校・2年生> 公民科（現代社会）

【単元名】 政治参加と民主政治の課題

(2(2)イ,3(2)イ(ウ))

【主な単元の目標】

・基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深め、日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活との関りから認識を深める。

・民主政治における個人と国家について考察し、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。

・障害者とのやりとりを踏まえ、社会の課題を解決するために、社会を構成する個人としてどう生きるべきか、考え、表現する。

【学習課題】

国民の多様な意見が政治に反映されたよりよ社会の実現のために、私たちに、社会を構成する一人としてどのような姿勢（態度）が求められるのだろう。

時間	主な学習内容
1/2	公民科（現代社会） 選挙と選挙制度
3	よりよい社会の実現のために 「インクルーシブな選挙制度の実現のために」（本時）

※ 単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

【実践例】 ※公民科（現代社会）「インクルーシブな選挙制度の実現のために」 第3/3時

授業の概要

<概要> 3 校種共同意識調査で見えてきた高校生の持つ意識の課題は「障害 = 身体障害」という限定的な理解であった。これを打破し、広く障害者との共生のために改善すべき制度上の課題についての検討を行う。

・ゲストティーチャーから障害ゆえに生じる選挙に関する困難（投票前の情報収集や投票所など）についてお話しいただく。

・ゲストティーチャーの話を踏まえ、特に発達障害を抱えた人が選挙に参加できるように改善すべき制度をテーマにワールドカフェでのディスカッションを行う。

ラウンド1「課題の発見、解決策検討」

ラウンド2「解決策の拡張」

ラウンド3「解決策のさらなる深化」

・各グループでの議論をまとめ、解決策についてゲストティーチャーへ提案し評価をいただく。

<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

成年年齢に近づいている高校2年生にとって主体的に取り組みやすい「選挙」をテーマの軸に据えた点。

○小中高を一貫する学習プログラムに資する工夫

小中高の連携による共通項は「合意形成」。高等学校段階では具体的な制度に関して真に求められている改善点を当事者との対話から読み取り、実現可能な制度設計を検討する。

・発達障害当事者（当事者としての視点から生徒と対話）

・障害者雇用を積極的に推進する企業

専門家や関係諸機関等との連携・協働

効果等

◆ 実際に発達障害の方を交えて議論することで、相手を意識して自分の意見を伝える力及び相手の意見を受け取る力の伸長が図られた。

◆ ゲストティーチャーから提案内容の評価を受けながら提案内容を精査することで、考察を深めることにつながった。